

かかわりの力を高めるための理論・技法



名城大学 曾山和彦

ソーシャルスキル・トレーニングとエンカウターの統合

演習(エクササイズ); 質問ジャンケン

- ・ペアで使う時間は30秒
- ・ジャンケンで勝ったら一つだけ質問する
- ・負けた人は、質問に簡潔に答える
- ・答えにくいものはパスOK(一つか二つ程度)
- ・あいさつ(よろしく、ありがとう)を必ず

質問ジャンケンの「質問項目」

必ず、以下から質問をすること

- 出身(〇〇県〇〇市等)は?
- 行ってみたい外国は?
- 好きな食べ物は?
- 好きなテレビ番組は?
- 今度の日曜日にしたいことは?
- 好きな芸能人は?

ソーシャルスキル・トレーニング Social Skills Training(SST)

- SSTは行動の教育; 教えることがなじむ
- ・「してみせて、言って聞かせて、させてみて、ほめてやらねば 人は動かじ」(山本五十六)

「質問ジャンケン」におけるSSTのねらい

あいさつ、話の仕方(〇〇です)、話の聴き方(傾き、視線、表情)等

構成的グループ・エンカウター Structured Group Encounter(SGE)

SGEは感情の教育; 教えることがなじまない

- ・「〇〇に気づいた、〇〇を感じた」等、個々の気づきをうながす。

「質問ジャンケン」におけるSGEのねらい

信頼体験、自他理解

ソーシャルスキル(対人関係のコツ・技)は自然に身につく?



ソーシャルスキルに関する縦断的研究
(石川他、2007)

小4~中1までの児童生徒対象。スキルは高学年が低い。不適応感も悪化。スキルは自然の時間経過によっては獲得されない。先生や友だちとの関係づくりスキルを学ぶことで学校不適応が改善

ソーシャルスキルを「教える」・「考えさせる」

- 10歳前後を境に、道徳性(大人に委任→自分で判断)、友人・母親関係(母への同調→友人への同調)が質的に変化する(川島)。

10歳までは**教える**
10歳からは**考えさせる**



思春期までは「教える」がなじむ！

いつから、いつまで？

7

スキル(技)を習得するには？

- 「個性を捨てろ、型にはまれ！」(三田)

アシスタント志望学生が、「個性、自分らしさ」を口にする。しかし、はじめは「型」の習得に専念することが大切。型がある程度身についた後に自分の色がつき始める。

イチロー選手がはじめから「イチロー打法」を身につけていたわけではない！

8

気持ちの入っていないスキルに意味はある？

- 「行動が感情をつくる」(ウィリアム・ジェームズ)

ジェームズは、「悲しいから泣くのではない。泣くから悲しいのだ」と述べた。口になじむほど「ありがとう」と言っていると、感謝の気持ちがやがて湧いてくる

めざせ！「日に用いて知らず」

9

ソーシャルスキルを育むには

学んでいないなら学ばばいい、
間違っ覚えてるなら学び直せばいい

行動理論(学習理論)がベース



ソーシャルスキルは児童期に最も発達する
特に小2～小5の時期が大切

10

ソーシャルスキル・トレーニング

してみせて 言って聞かせて させてみて
ほめてやらねば 人は動かず(山本五十六)

<基本展開>

1. インストラクション(言語教示)
2. モデリング(示範)
3. リハーサル(実行)
4. フィードバック(評価)

11

学級集団を活用したSSTの薦め(小林)

- 人づきあいの楽しみ方を学ばせる
- 教え込む雰囲気ではなく
- 楽しくて仕方ない工夫
- 友だちと一緒に活動する喜び

12

A小学校 & B中学校の実践 「人づきあいのコツを学ぶSST」

- 全学年が年間を通じて、朝や帰りの短学活を使い、SSTに取り組む。

SSTタイム継続により、授業中の子ども同士のかかわり方もとてもよくなった。自分の考えに固執せず、柔軟な考えをもつ子どもが増えてきた。(A小教師の声)

先生とA君のうなずきには勝てないけど、僕なりにがんばって聴きました。Bちゃんは「そうそう」と声を出して反応してくれたので、楽しくなってきました。(B中生徒の声)

13

A小学校 & B中学校の実践共通点

- 短時間・継続実施
- 年間計画作成
- 客観性のある尺度(Q-U)導入
- 成果発表の場の設定
- 継続研修

14

言葉かけをチェック！ ～大人の言葉は子どもに届いているか？～

私たち大人(親・教師)の言葉は子どものソーシャルスキルを育てているのか？

＜次の場面では、どんな言葉をかけますか？＞

- ・言われなくてもゴミを拾ってくれた子どもには？
- ・授業中、おしゃべり(私語)をしている子どもには？

15

ソーシャルスキルを育むために ～アイメッセージ(ゴードン)の活用～

「褒める」との違いは？

＜肯定アイメッセージ＞

「ありがとう」「うれしい」「助かった」等
* アドラー心理学では「勇気づけ」の言葉かけとなる

＜対決アイメッセージ＞

「行動」～非難がましくなく描写して伝える
「影響」～行動により受ける影響を伝える
「感情」～影響が自分に抱かせる感情を伝える

例:「話を聴く」スキルを身につけさせたいときに

とっておきのソーシャルスキル ～これがあれば人間関係の達人;アサーション～

□ 定義: 自他尊重のコミュニケーションスタイル

「受け身的」～相手を大切にしようとするが自分の気持ちや意見を大切にしないスタイル

「攻撃的」～自分の考えや意見が唯一絶対正しいものであって、相手の気持ちはあまり重要ではないか、間違っていると決めつけて相手を大切にしないスタイル

「アサーション」～自分も相手も大切にすスタイル

17

アサーションを身につけるには ～ロールプレイの活用～

何故、ロールプレイを行うのか(意義)



ロールプレイは「道場の竹刀稽古」。本番で斬らない、斬られないために稽古を積む(河合)

18

C中学校の実践

「全ての学級が取り組むアサーションワーク」

□ テーマは「**上手な断り方**」

アサーション
自他尊重のコミュニケーションスタイル
さわやかな自己主張

気になる生徒も含め、全学級の生徒がグループワークやロールプレイに取り組む姿に驚く。校長から頼もしい発言もあり。「国語・数学の力は秋田にも負けません！」

19

演習;「上手な断り方」(基本)

- A お願いする
- B 理由をつけて断る
- A 了承する
- B 配慮の言葉をかける(次は…、今度は…)

20

演習;「上手な断り方」(応用)

- A お願いする
- B 理由をつけて断る
- A 繰り返して、お願いする(複数代案)
- B 相手の思いも大事にしつつ断る
- A 了承する(2分の合図を聞いたら)
- B 配慮の言葉をかける(次は…、今度は…)

21

研修まとめ～ソーシャルスキルの育成～

1. **新たな視座**で実践更新を(前田)

2. 情熱だけでは難しいことがある
技が必要(鹿嶋)

3. 一つだけでは
多すぎる(外山)



これからも、お互い
学んでいきましょう！

4. 「**アンテナ**」を2本立てる
「**ルール違反&遵守**」の両方を見逃さずに

5. 最強・最高の教材は教師自身



22

主な参考・引用文献

- エンカウンターで学級が変わる、國分康孝、図書文化
- グループ体験による学級育成プログラム、河村茂雄、図書文化
- 「親業」、トマス・ゴードン、サイマル出版
- 発達を考えた児童理解・生徒指導、川島一夫、福村出版
- 教師の実践する力を鍛える、前田勝洋、黎明書房
- 思考の整理学、外山滋比古、ちくま文庫
- 時々、「オニの心」が出る子どもにアプローチ 学校がするソーシャルスキル・トレーニング、菅山和彦、明治図書

HP; 学校におけるカウンセリングを考える会

23